



教祖のおたすけに 使って頂けるようぼくに

9月月次祭におけるメッセージ

立教185年9月22日

大教会長 片山幹太



発行所 〒763-0223 香川県丸亀市本島町泊268
天理教本島大教会
 電話 0877-27-3321 (代)

本島通信編集室 R220924-0927-12
 奈良県天理市指柳町270-1
 本島詰所 〒632-0093
 電話 0743-63-1571 (呼)

<https://www.honjima.com>
 Email: webmaster@honjima.com

大教会 朝夕おつとめ時間
 【10月1日～10月15日】
 朝づとめ 午前6時30分
 タづとめ 午後6時30分
 【10月16日～10月31日】
 朝づとめ 午前6時45分
 タづとめ 午後6時15分

本日は大教会9月の月次祭へご参拝下さり誠にありがとうございます。私は今月から修養科一期講師として、おちばで暮らす喜びを味わっております。

先日修養科にて、あるAさんが「病気の悩みは医者には相談できる人がいないんですよね」と言われました。

私は「医者の手余り捨てても助けが、神のおたすけという(おさしづM29・5・1)」と教えられるように、「事情の相談も、病気の相談にもありますよ」と思いました。

私たちよ、はくは教祖の道具衆として、病気や事情のおたすけに使って頂けるよう、心配り、目配りに努めさせて頂きましょう。

今月は全教一斉にをいがけデーがあります。教祖にお働き頂けるよう、積極的にをいがけに歩かせて頂きましょう。

「諭達第四号」ご発布について

10月26日本部秋季大祭にて「諭達第四号」をご発布いただいた後、役員・准役員・教会長の皆さまには、ハッピー着用の上、詰所写真の間にご集合ください。全員で「諭達」を拝読させていただきます。(時間については追ってお知らせします)

ご本部より各教会にB2サイズの諭達が下附されます。10月26日、写真の間で拝読後、各教会にお渡しします。

一般頒布については、祭典終了後、境内地の臨時頒布場所にてA5冊子(50円)、A3掲示用(30円)が販売されます。

【本島大教会総務部】

さて、話は変わりますが、一期講師の先生方と神殿案内の準備をしているとき、本部廻廊の柱にあるハートマークは何かと話題になりました。

それについて本部在籍の先生が「あれは猪目です」と教えて下さいました。

猪目とは日本古来の文様で、火伏の魔除けとして神社仏閣などの建築物に設けられているのだそうです。

この猪目、東廻廊では丸くて大きい釘が打たれてあるのに対して、西廻廊には釘が打たれてありません。

釘が打たれてある方は船大工が、釘がない方は宮大工が造った廻廊なのだそうです。

のだそうです。

御本部のふしんでは、ふしんに伏せ込まれる方々が培ってきた徳分を活かした造りになっていることを知りました。

私はそこに親心、広い心、丹精、徳分を活かすことなど、改めて理の思案をすることができました。

皆さんも今度おちばに帰られた際には、ぜひ廻廊をぐるりと廻り、二種類ある猪目を確認してみてください。

おちばでお会いしましょう。

(文責・本島通信編集室)

大教会三代会長様のお仕込みと 21日お願いいづとめの不思議

大教会役員
まきのみちあき
牧野道昭

去る9月19日から20日にかけて日本列島を縦断した台風14号の直後にも関わらず、遠近を問わず大教会にお帰り下さいまして誠にご苦労様でございます。

只今は勇み心いっぱい9月月次祭を勤めさせて頂き、誠に同慶の至りでございます。

本日は約2年ぶりに祭典講話の御



命を戴きましたので、しばらくお付き合いの程をよろしくお願い申し上げます。

明日(9月23日)は秋季霊祭が勤められます。私の父、牧野達男50年祭もお勤め下さいますので、本京分教会3代会長でもあった父の思い出を振り返りたいと思います。

私が小学3年生の時、理科の時間に顕微鏡で木の葉を拡大して観察する機会がありました。私はその不思議な世界に魅了され、その顕微鏡が欲しくなりました。

私は父に「買って、買って」とおねだりしました。倍率が50倍ほどの顕微鏡だったと思いますが、子どもにとっては高価な品物だったのでしよう。父は頑として首を縦に振ってくれません。

私は何度も駄々をこねましたところ、そのうちに父が根負けして、条件付きで買ってくれることになりました。

その条件とは、朝と夕に教会の廊下掃除や庭掃除をすること。これを続けたらいつか買ってやろうという約束でした。

そして手製の木箱をくれて、箱の表面には「日々の心の理」、裏面には私の名前が記され、右側には「理を立てると身が立つ」、左側には「人をたすける理」と書いてありました。

この言葉の意味は当時の私にはまったく分かりませんでした。しかしこのお道を歩ませて頂く中、数々の節目を通してこの意味が少しずつ判るようになってまいりました。そしていつの間にか、私の信仰の精神的支柱になったように思います。

この「理を立てる」「人をたすける」のご教理は、生涯かけての「ものだね」であると思います。

その箱は現在も使用中です。裏面には結婚を機に妻の名前も書き加えました。

毎月21日、大教会では「にをいかけ名簿」と「おさづけのお取次ぎ名簿」によるお願いいづとめが勤められ

ます。先月は私の妻と住込人の身上のお願いいづとめも併せて勤めて下さいました。

この21日のお願いいづとめには、大きな理の働きを頂けるのであります。今から45年ほど前のことです。父が出直した後、私が28歳で教会長になって数年後の8月のことです。

毎月20日の晩に部内の教会長様と一緒に車で東京を発ち大教会に帰らせて頂くのですが、出発前のこと、教会の信者さん宅へおさがりを持って訪問させて頂きました。

用事も済んで帰る間際、その信者さんの奥様から「主人のお医者さんが、『真夏は暑いから避暑に行くつもりで都立病院へ入院したら』と勧められましたので、明日から入院します。でもどこも悪くないから安心してください」とのことでした。

どこも悪くないと念押しされますので、私も安心して予定通り大教会へ帰りました。

ところが大教会に到着して21日午後、教会から電話が掛かってきました。入院した信者さんのご主人が、「病院で急に容態が悪くなって危篤状態になった。すぐ東京に帰ってきたくて、病院へ行って欲しい」とのこと

です。

すぐに東京へ戻ろうと思い、夕づとめ前だったと思いますが、3代会長様に事の次第を申し上げました。

すると会長様は「お前は何しに大教会に帰ってきたのか。これから夕づとめがあり、その後はお願いづとめがあることを知っているだろう。それもせずに帰るのか。しっかりおつとめを勤めて、祭典も勤めてから行きなさい」とお叱りになりました。

なるほど誠にその通り、そのために私は毎月大教会に「にをいがけ名簿」を持って帰らせて頂いているのです。東京に戻るのはあきらめて、お願いづとめを真剣に勤めさせて頂きました。

翌日のことです。当時は午前中に教会長会議、午後から祭典が勤められていました。その午前中に3代会長様とお目にかかったとき、昨日とはまったく逆のことを言われたのです。「お前は何をここでグズグズしているのか。さっさと東京へ帰り、病人さんのところへ行っておたすけしてこい」という話であったのです。私はおかげですぐ東京へ戻りましたが、その時、天理教は難しいなあと思いました。

新幹線で東京に戻りましたが、病院に到着した頃は空が黄昏れていました。病室の前にご子息がウトウトと眠っていました。小声で「牧野です。今、大教会からまいりました。容態はいかがですか?」と伺いますと、息子さんは目を覚まされて「いやあ会長さんですか。父ですけど、不思議にも元気に快復したのですよ」とのことです。

お話によると、「確かに昨日は一時危篤状態となったものの、夕方頃から病状に変化があり、段々と持ち直してきた」とのことなのです。その変化があった夕方とは、私が3代会長様から「お前は何しに帰ってきているんだ」とお叱りを頂き、真剣にお願いづとめを勤めさせて頂いた時なのです。

私は大教会の理に圧倒されました。今から随分昔のことになりましたが、今でも3代会長様のご指導と、親神様・教祖の不思議なお働きが忘れることなく心に残っています。

先月21日にお願いづとめを願い出た妻と住込人につきまして、一人は先月、一人は今月手術を行い、無事に終わり、現在二人ともリハビリに励んでおります。そして元気な身体

でお道の御用を勤めさせて頂きたいとがんばっています。さて10月26日には、教祖140年祭の論達が真柱様よりご発布下さると聞いております。いよいよ三年千日の年祭活動が始まるのであります。なにを目標において、どのように勤めさせて頂くのか、大教会長様とご相談しながら思案を重ねているところです。

現在、本京分教会は神殿ふしんの最中です。そこで形の上では、神殿ふしんをやり遂げ、神殿落成奉告祭を勤めることが第一の使命だと自負しております。

そのためには、心を定めて実行することがいっぱいあります。妻の身上を通して思案させて頂いていることは、やはり部内教会の皆さまと一手一つに勤めること、そして運ぶことです。心の運び、身の運び、大教会に運び、部内教会に運び、信者さんに足を運ぶ。

コロナ事情から、対面で会うことが制限されることもありましたが、それなら郵送や電話などのコミュニケーションションで、心をつなぐことができます。

部内教会も教会内容の充実のため、

それぞれが目標を設けて実行に踏み切るよう、この論達をしっかりと受け止めさせて頂き、一手一つに前進させて頂きたいと思っております。ご清聴ありがとうございました。

(文責・本島通信編集室)

よろこびごと
慶事

■ クリストファー・スチュワート氏、めぐみさん(吉田知彦・本府中分教会長の妹)夫妻に9月10日、第二子と三子となる双子の男子が生まれました。「ジエイデン・善」(写真上)と「ケイデン・陽」(下)と命名。



■ 向所慶太氏(赤峰分教会後継者)未奈さん夫

妻に9月21日、第三子次男が誕生しました。

「椿」と命名。



九月月次祭 祭典役割

献饗長 牧野道昭
伝 供 寺本教生・永山晴明・吉田晴雄・向所隆文・永島宗行・大上道徳・原口実・奥村龍夫・伊東康成・高垣光治・肥後章・吉田知彦・高島栄造・長濱充憲・岩橋守行・長尾海和・白垣初生・寺本邦一・岩橋秀一・鎌田典夫・西森正昭・須崎晴道・上山康雄・滑川善久・村田輝夫・川村吉夫・木村太喜・溝口晋太郎
雅楽奉仕者 池田恒治・片山秀明・香川高範・上山薫・伊東賢太郎・内橋和博・鎌田康典・伊東慎平・吉田貴慶・白垣俊生(順不同)

| 祭主 指方 | 片山 勲 | 座りづとめ | 老木邦光 | てをどり前半 | 雲庵春彦 |
|----------|-------|--------|-------|--------|-------|
| | 西山道教 | | 平井真治郎 | | 片山直明 |
| 地 方 | 牧野道昭 | てをどり後半 | 吉田晴雄 | てをどり後半 | 雲庵春彦 |
| | 老木邦光 | | 大上道徳 | | 肥後 章 |
| てをどり | 片山 勲 | てをどり後半 | 岩橋竜造 | てをどり後半 | 伊東康成 |
| | 高島清弘 | | 永山晴明 | | 高垣光治 |
| てをどり | 岩橋慶三 | てをどり後半 | 原口 実 | てをどり後半 | 山下英久 |
| | 会長夫人 | | 原口和子 | | 長尾善絵 |
| てをどり | 片山やすゑ | てをどり後半 | 高垣洋子 | てをどり後半 | 谷口十糸子 |
| | 長尾澄子 | | 片山美穂 | | 宮武有為子 |
| てをどり | 岡崎八十則 | てをどり後半 | 吉田知彦 | てをどり後半 | 高島栄造 |
| | 雲庵道延 | | 白垣初生 | | 長濱充憲 |
| てをどり | 寺本教生 | てをどり後半 | 向所隆文 | てをどり後半 | 宮路和徳 |
| | 平井真治郎 | | 窪田靖明 | | 岩橋秀一 |
| てをどり | 奥村龍夫 | てをどり後半 | 片山直明 | てをどり後半 | 長尾海和 |
| | 永島宗行 | | 鎌田典夫 | | 寺本邦一 |
| てをどり | 池田さわみ | てをどり後半 | 向所暉美子 | てをどり後半 | 今野芳子 |
| | 片山 榮 | | 雲庵まち子 | | 岩橋貴子 |
| てをどり | 片山孝代 | てをどり後半 | 片山眞喜代 | てをどり後半 | 梅木澄代 |
| | 牧野道昭 | | | | |

九月月次祭祭文

立教百八十五年九月二十二日

この神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に天理教本島大教会会長片山幹太に代り、役員片山勲慎んで申し上げます
 親神様には人間の陽気ぐらしを楽しみにこの世人間をお創め下さり限りない御守護とだんだんのお仕込みによりひたすら成人の道にお連れ通り下さいます親心の程は、誠に有難く勿体ない極みでございます
 私共は届かぬながらも御恩報じを念じて日夜勇んでたすけ一条の御用に励ませて頂いておりますが、その中にも今日の吉き日は当大教会の九月の月次祭を勤めさせて頂く日柄に当りますので只今から、おつとめ奉仕者一同心を一つに合わせて座りづとめ、てをどりを陽気に勇んでつとめさせて頂きます
 御前にはこれの大教会につながる教会長夫婦を始めよふばく信者一同が世上の厳しい事情の中をも厭わず今日を楽しみに帰り集い、日頃の御高恩に御礼申し上げ尚も尽きせぬ御守護にお継りする真実の状をも御覧下さいます親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます
 私共一同は教祖百四十年祭三年千日の活動を間近かに控える中、来る十月二十六日には真柱様から「論達」を御発布下さいますので、今から心の準備を整えて論達に込められたをやの思召をしつかりと心に受け止めさせて頂き一手一つに勇んで年祭活動に歩み出させて頂く決心でございます

います

この月二十八日から三十日にかけての「全教一斉にをいがけデー」には自らがお道ののをい意識して、身近な人達を始め一人でも多くの人達に教祖の御教えを伝えさせて頂く所存でございます

何卒親神様には一同のこの心をお受け取り下さいます、年祭活動の気運の高まりと共に世界たすけの上には一段と自由の御守護を賜り一日も早く陽気づくめの世の状にお導き下さいますよう一同と共に慎んでお願い申し上げます
 (原文のまま)

入社祭

立教185年9月の入社祭はありませんでした

9月22日(木)
 【香川県丸亀市】

天候 曇後時々雨
 最低気温 18.4℃
 最高気温 26.8℃
 平均気圧 1017.2hPa
 平均湿度 79%
 平均風速 2.0m/s
 日照時間 3.3時間
 降水量 1.0mm
 ※降水量は一日の総雨量

事情はいづ

立教185年9月、本島関係のお運びはありませんでした。

おさげの理拝戴

渋谷 永島 颯
〔計1名〕
(立教185年8月分)

修養科第972期修了

渋谷 永島 颯
〔計1名〕
(立教185年8月27日終了)

をびや許し

本 淀 奥村 優
〔計1名〕
(立教185年7月分)

本米里 鈴木 結
〔計1名〕
(立教185年8月分)

おさげお取り次ぎ報告

(立教185年9月22日)
提出教会 19教会
報告数 627回
本年累計 11、734回

証拠守り下附

本米里1、崇徳2、本陽山1
〔計4名〕
(立教185年7月分)

雄福峰2
〔計2名〕
(立教185年8月分)

少年会新隊長

樺大隊 平井快治
(立教185年7月分)

大教会長動向

10月(予定)▲
1日~31日、修養科一期講師
以上

ろくぢ会

(立教185年9月分)
▼本島△片山幹太・片山かおり・香葉子・幹太郎・好次・昇太△片山秀明△長尾真実・幸太 ▼樺太分教会 ▼本樺△大上ほの香・はる香・太吉 ▼本浜△片山清枝・正枝・誠 ▼攝泉分教会 ▼本篠△寺本 ▼本高分教会 ▼崇徳分教会△高垣さとえ ▼ポートランド△片山和信・陽子・昇慶・竜次
ご芳志に厚くお礼申し上げます

女鳴物勉強会

婦人会本島支部(片山かおり支部長)では9月22日、大教会夕づとめ後の約1時間、参拝場にて女鳴物勉強会を実施。約12名が参加しました。

「三味線の糸が切れた時の対処法」として、一番細い三の糸が切れたときに、音が途切れないように、二の糸をポジションチェンジして弾く方法を稽古しました。



親里管内学生親睦会

本島学生担当委員会(池田さわみ委員長)では、9月19日に親里管内の高校生7名が参加し、親睦会を行いました。

秋季霊祭役割

祭主 片山 勲

指図方 西山道教

扨者 老木邦光

贊者 平井真治郎

後藤正治

片山直明

献饗長 牧野道昭

伝 供 井上哲・岡

崎八十則・永山晴明・

吉田晴雄・向所隆文・

大上道徳・原口実・

奥村龍夫・伊東康成・

高垣光治・雲庵春彦・

吉田知彦・高島榮造・

長濱充憲・岩橋守行・

長尾海和・山下英久・

寺本邦一・鎌田典夫・

大西剛・茶屋原良昭・

溝口晋太郎

雅楽奉仕者 池田恒治・片山秀明・香川高範・内橋和博・鎌田康典・伊東慎平

| てをどり | てをどり前半 | てをどり後半 |
|------------|--------|--------|
| 笛 ちゃんぼん | 片山直明 | 岩橋守行 |
| 拍子木 | 後藤正治 | 大西剛 |
| 太鼓 | 井上哲 | 茶屋原良昭 |
| すりがね | 寺本教生 | 高垣光治 |
| 小鼓 | 平井真治郎 | 溝口晋太郎 |
| 三味線 | 吉田晴雄 | 大上道徳 |
| 胡弓 | 片山やすゑ | 片山美穂 |
| | 向所暉美子 | 谷口十糸子 |
| | 伊東晴美 | 今野芳子 |
| | 片山直明 | 岩橋守行 |
| | 長尾澄子 | 佐藤道子 |
| | 池田さわみ | 高垣洋子 |
| | 会長夫人 | 片山孝子 |
| | 窪田靖明 | 長濱充憲 |
| | 老木邦光 | 井上力 |
| | 片山 勲 | 寺本邦一 |
| | 向所隆文 | 伊東康成 |
| | 岡崎八十則 | 奥村龍夫 |
| | 岩橋慶三 | 原口実 |
| | てをどり前半 | てをどり後半 |



午前中は詰所フロアと階段の清掃ひのきしん。午後からボーリングに出かけました。

| にをいげ名簿提出教会 (9月) | |
|-----------------|--------|
| 9 | 峰峰峰峰峰 |
| 51 | 赤豪倉栄東 |
| 1 | 赤豪倉栄東 |
| 8 | 赤豪倉栄東 |
| 5 | 赤豪倉栄東 |
| 5 | 赤豪倉栄東 |
| 34 | 赤豪倉栄東 |
| 6 | 代前中徳山 |
| 19 | 千備府中徳山 |
| 2 | 本本本 |
| 7 | 本本本 |
| 1 | 本本本 |
| 2 | 本本本 |
| 2 | 本本本 |
| 11 | 樺室谷 |
| 3 | 本本本 |
| 16 | 本本本 |
| 2 | 本本本 |
| 3 | 本本本 |
| 63 | 本本本 |
| 16 | 本本本 |
| 計 21 教会 266 名 | |



第96回天理教青年会総会

【青年会本部】

- 日時：10月27日(木)
午前9時～第1部：おつとめ(各代表者のみ)
午前10時～第2部：青年会長あいさつ、グループワーク(インターネット・ライブ配信、後日アーカイブ配信予定)

青年会本島分会総会

【青年会本島分会】

- 日時：11月20日(日) 10時30分～
- 会場：本島大教会

雅楽講習会

【青年会本島分会】

- 日時：10月9日(日)午前9時30分～10日(祝)午後5時
- 会場：本島詰所
- 内容：壺越調を主とした練習

みちのだいおはなし会

【婦人会本部】

- 日時：10月26日(水)午後1時～2時
- 会場：本部東講堂
- 講師：西澤衣子氏「天への道すじ」
河内恭子氏「運命を変えてくれた一枚のポスター」

令和4年度教会教費金

【大教会会計部】

- 令和4年度教会教費金がまだ未納の教会は、10月26日まで本部会計へお納めください。

第30回女子青年大会

【婦人会本部】

- 日時：11月27日(日)午前10時より式典
- 会場：本部中庭
- ※本島支部として、式典終了後、西境内地清掃ひのきしん(約1時間)。昼食後、本島詰所4階講堂にて行事を行います。解散は午後2時半頃の予定。
- ※会員には大教会より直接案内ハガキをお送りします。当日の受入準備の都合、参加可否を各教会へお尋ねしますので、ご協力をお願いします。

少年会本部研修員募集

【少年会本部】

- 将来、縦の伝道を担い、活躍する人材を育成します
- 募集人数：50名
 - 出願期間：令和4年9月26日～令和5年3月26日
 - 研修期間：令和5年3月26日～令和6年3月26日
 - 出願資格：①団長が推薦し、直属教会長が認めた者。②ようぼく(おさづけの理を拝戴予定の者も可)
 - 内容：1年間の研修期間中に、講義・しこみ・実技・実習等カリキュラムと共に、少年会本部でひのきしんをつとめます
 - ※詳細は直属団団長(岩橋竜造)におたずね下さい

ちょっと!パッと!べんきょう会

【少年会本部】

- 10月26日：知らなきゃ損!「バズるレクリエーションゲーム」
- 11月26日：誰でも簡単にできる!「ネイチャークラフト」
- 時間：13:30～15:00
- 場所：少年会本部 真南棟4階
- 参加費：200円
- 対象：育成会員
- 服装：活動に適した服装
- 問い合わせ先：少年会本部 (TEL 0743-63-1954)

<https://www.honjima.com/>

本島大教会ウェブサイト

10月ひのきしん派遣依頼

【総務部】

〈大教会・炊事ひのきしん〉

- 期間：10月21日～22日
- 派遣教会：渋谷

〈秋季大祭詰所受入ひのきしん〉

- 期間：10月24日20:00～27日8:00
- 派遣教会：本樺、本京、本浜、本攝、本岡、本亀、与島、本高、本九、赤峰より各1名

大教会秋季大祭ライブ中継

【本島通信編集室】

- 対象：10月22日大教会秋季大祭に参拝できないため、ライブ中継視聴を希望する方
- 申込方法：メールで、live@honjima.comに「ライブ希望」と「教会名・氏名」を記入してお申し込みください。当日朝ライブ視聴できるアドレスをメールでお知らせします。
- 申込締切：10月21日午後5時まで
- ご注意：ライブ中継は毎月のお申し込みとなります。



統計 (8月1日～31日)

| 教会名 | 初席 | 中席 | 妻の座 | 修科 | 教人講習 | 検定講習 |
|-------|----|----|-----|----|------|------|
| 樺太 | 1 | | | | | |
| 渋谷 | | | 1 | 1 | | |
| 本恵 | 1 | 1 | | | | |
| 本米里 | | 1 | | | | |
| 本千代 | | 1 | | | | |
| フィリピン | 1 | | | | | |
| 吉峰 | | 1 | | | | |
| 雄福峰 | 1 | 1 | | | | |
| 大隅聖峰 | | 1 | | | | |
| 大駿峰 | | 1 | | | | |
| 吉松峰 | | 2 | | | | |
| 鶴峰 | | 1 | | | | |
| 合計 | 4 | 10 | 1 | 1 | - | - |